

平成28年度

事業報告書

(自)平成28年4月 1日
(至)平成29年3月31日

社会福祉法人 丹原福社会

(目次)

法	人	P 1
特別養護老人ホーム		P 4
シ ョ ー ス テ イ		P 6
デイサービスセンター		P 7
居宅介護支援事業所		P 8
在宅介護支援センター		P 9
配食サービスセンター		P 11

法 人

1. 法人の概要

【主たる事務所の所在地】 愛媛県西条市丹原町今井457番地1

【電話番号】 (0898)76-2111

【代表者氏名】 理事長 宮田 須

【法人認可年月日】 平成17年 7月22日

2. 法人の行う事業

事業の種類	名称	定員
第1種社会福祉事業	特別養護老人ホーム ル・ソレイユ	50名
第2種社会福祉事業	ショートステイ ル・ソレイユ	20名
	デイサービスセンター ル・ソレイユ	30名
	居宅介護支援事業所 ル・ソレイユ	/
	在宅介護支援センター	/
公益事業	配食サービス	/

3. 役員等の状況

役職	氏名	就任年月日	役職	氏名	就任年月日
理事長	宮田 須	平成28年8月13日	評議員	宮田 須	平成28年8月13日
理事	近藤 恵津子	平成28年8月13日	〃	近藤 恵津子	平成28年8月13日
〃	高橋 圭三	平成28年8月13日	〃	高橋 圭三	平成28年8月13日
〃	田端 剛爾	平成28年8月13日	〃	田端 剛爾	平成28年8月13日
〃	宮田 和代子	平成28年8月13日	〃	宮田 和代子	平成28年8月13日
〃	村上 俊治	平成28年8月13日	〃	村上 俊治	平成28年8月13日
監事	井上 英俊	平成28年8月13日	〃	今井 淳	平成28年8月13日
〃	安藤 功	平成28年8月13日	〃	今井 信夫	平成28年8月13日
			〃	木村 正敏	平成28年8月13日
			〃	曾我部 大	平成28年8月13日
			〃	宮田 哲彦	平成28年8月13日
			〃	村上 輝雄	平成28年8月13日
			〃	柳瀬 朝子	平成28年8月13日
			〃	山内 昇	平成28年8月13日

4. 理事会・評議員会開催状況

(1) 理事会

開催年月日	議事内容
平成28年5月27日	<ul style="list-style-type: none">平成27年度事業報告について平成27年度決算報告について
平成28年8月10日	<ul style="list-style-type: none">評議員の選任について
平成28年8月10日	<ul style="list-style-type: none">理事・監事委嘱について理事長の選任について
平成29年1月23日	<ul style="list-style-type: none">新定款の承認について
平成29年2月6日	<ul style="list-style-type: none">選任・解任委員の選任について
平成29年3月28日	<ul style="list-style-type: none">平成28年度補正予算について平成29年度事業計画について平成29年度予算について

(2) 評議員会

開催年月日	議事内容
平成28年5月27日	<ul style="list-style-type: none">平成27年度事業報告について平成27年度決算報告について
平成28年8月10日	<ul style="list-style-type: none">評議員の委嘱について役員の選任について
平成29年3月28日	<ul style="list-style-type: none">平成28年度補正予算について平成29年度事業計画について平成29年度予算について

事業計画について

(経理部門)

近年の会計処理の統一化・電子化への対応について理解を深めていくことができた。
今後も、積極的に研修に参加し理解していきたい。

(事務部門)

品質とコストのバランスを向上させるよう努めた。オムツ業者との交渉を重ね、高品質な商品を、以前使用していたオムツと同じ価格で仕入れることができるようになった。

(機能訓練指導員)

褥瘡予防のために、トランスファーやポジショニングの実施や助言を実施した。しかし、褥瘡の発生は、完全に防ぐことができていない。来年度は、ご利用者様一人ひとりに合わせた職員の介護技術の向上とマットレスなど用具の有効活用で褥瘡予防により一層努めたい。

(管理栄養士)

ひとことカードを活用し、利用者様の状態に沿った食事を提供できるよう努めた。今後はユニット炊飯を通して、家庭的な雰囲気や食の楽しみを利用者様に感じていただけるよう取り組んでいきたい。

(生活相談員)

特養担当

介護現場に足を運び、利用者様の心身状態を把握し、家族様とコミュニケーションを図り、相談に応じる事ができた。今後は、介護サービスの向上にも努めていきたい。

ショートステイ担当

居宅のケアマネージャーと連携を取り、家族様や利用者様の要望にもできるだけ応じる事ができた。送迎時に家族様とコミュニケーションを取り、信頼関係も築けてきている。
今後は、キャンセルや特養の空床利用など空室がでないように努め、稼働率を上げていきたい。

(ケアマネージャー)

新規の入所様には、家族様にどのような生活をしてきたかのアンケートで情報を得、それらを取り入れたケアプランを作成した。今後も、家族様・利用者様の意向を取り入れ、施設での生活が充実して送れるよう努めたい。

特別養護老人ホームル・ソレイユ

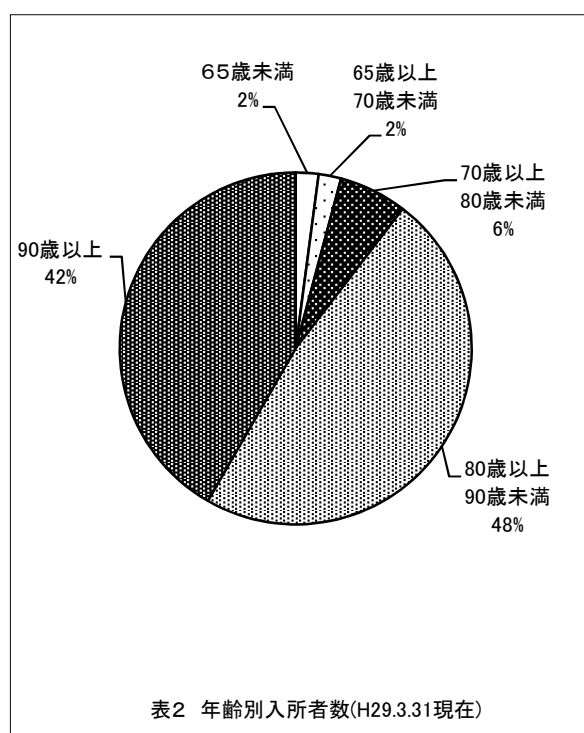
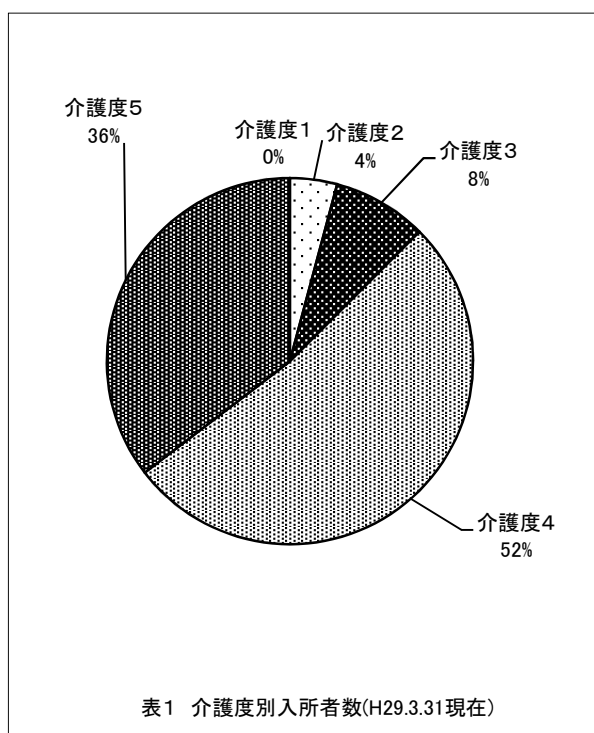
1. 入所者等の状況(平成29年3月31日現在) 定員50名

(1)介護度別入所者数 (表1)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均要介護度
男	人	1人	1人	5人	4人	11人	4.18 ※(27年度4.12)
女	人	1人	3人	20人	13人	37人	
計	人	2人	4人	25人	17人	48人	

(2)年齢別入所者数 (表2)

65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	平均年齢
1人	1人	3人	23人	20人	88.3歳 ※(27年度87.4)



※備考 要介護在所者の構成割合

特養	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	平均介護度
全国の状況	3.0%	8.7%	21.5%	33.3%	33.3%	3.85

2. 入退所状況（定員 50名）

28年度	延入所者数	入所者数		稼働率
		退所者数		
H28年4月	49.0 人	2 ----- 3	人	99.0 %
H28年5月	50.0 人	1 ----- 0	人	99.9 %
H28年6月	50.0 人	1 ----- 1	人	99.8 %
H28年7月	49.0 人	0 ----- 1	人	99.7 %
H28年8月	50.0 人	1 ----- 0	人	99.8 %
H28年9月	50.0 人	2 ----- 2	人	99.5 %
H28年10月	50.0 人	0 ----- 0	人	100.0 %
H28年11月	50.0 人	1 ----- 1	人	99.7 %
H28年12月	49.0 人	0 ----- 1	人	99.6 %
H29年1月	50.0 人	4 ----- 3	人	98.7 %
H29年2月	50.0 人	1 ----- 1	人	99.5 %
H29年3月	48.0 人	1 ----- 3	人	97.7 %
平均	49.5 人	1 ----- 1	人	99.4 %

前年97.0%
全国平均95.0%

(退所の内訳)

看取り 10 人
死亡 3人
長期入院 3人

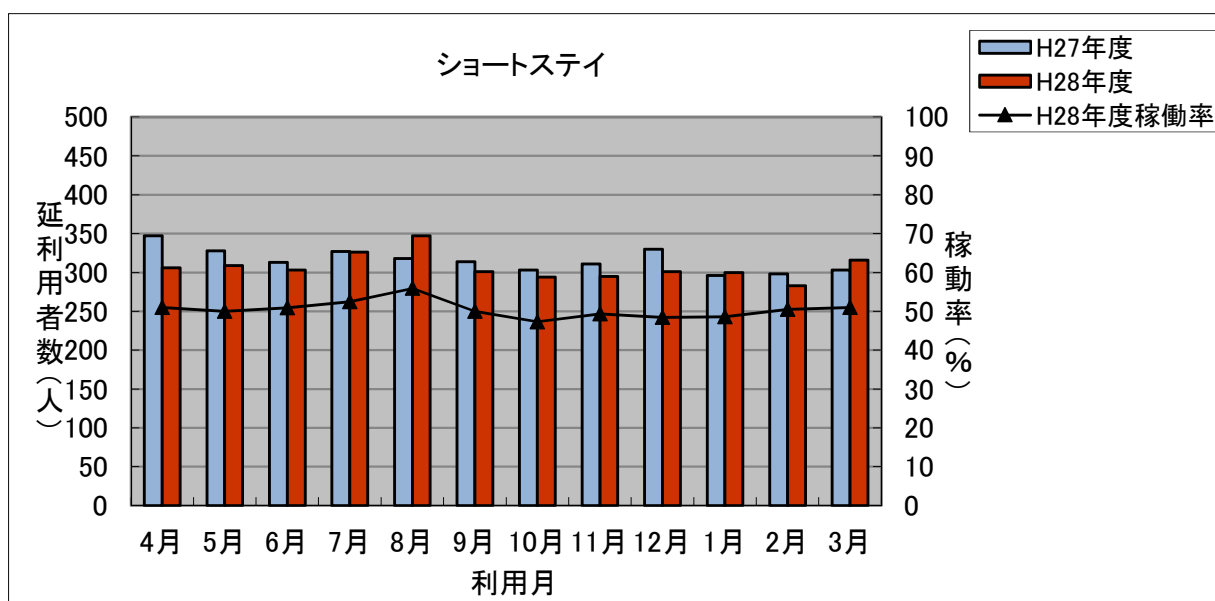
(転倒・転落事故の件数)

うち入院者 人
人

短期入所生活介護事業所 ル・ソレイユ

1. 利用状況

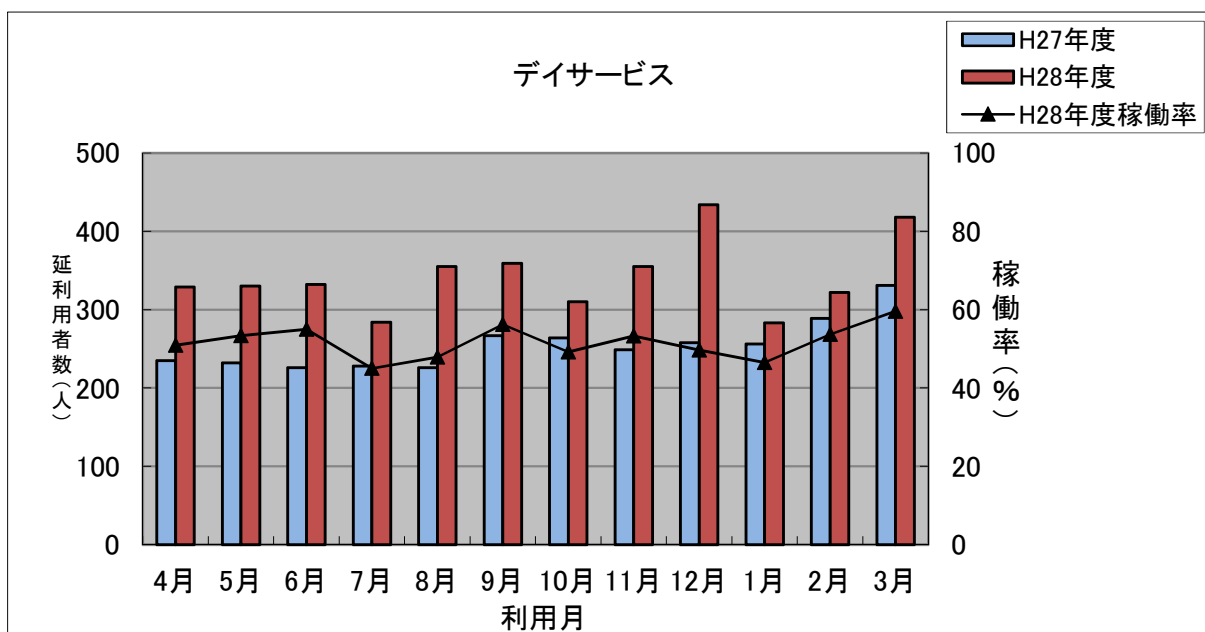
28年度	延利用者数	1日平均利用者数	稼働率
H28年4月	306人	10.2人	51.0%
H28年5月	309人	10.0人	50.0%
H28年6月	303人	10.1人	50.9%
H28年7月	326人	10.5人	52.5%
H28年8月	347人	11.2人	55.9%
H28年9月	301人	10.0人	50.0%
H28年10月	294人	9.5人	47.3%
H28年11月	295人	9.8人	49.3%
H28年12月	301人	9.7人	48.4%
H29年1月	300人	9.7人	48.6%
H29年2月	283人	10.1人	50.5%
H29年3月	316人	10.2人	51.0%
平均	306人	10.0人	50.4%



デイサービスセンタール・ソレイユ

1. 利用状況

28年度	延利用者数	1日平均利用者数	稼働率
H28年4月	329 人	15.7 人	50.9 %
H28年5月	330 人	15.0 人	53.4 %
H28年6月	332 人	15.1 人	55.0 %
H28年7月	284 人	13.5 人	45.0 %
H28年8月	355 人	15.4 人	47.9 %
H28年9月	359 人	16.3 人	56.2 %
H28年10月	310 人	14.8 人	49.2 %
H28年11月	355 人	16.1 人	53.3 %
H28年12月	434 人	20.7 人	49.7 %
H29年1月	283 人	14.2 人	46.5 %
H29年2月	322 人	16.1 人	53.7 %
H29年3月	418 人	18.2 人	59.6 %
平均	342.58 人	15.9 人	51.7 %

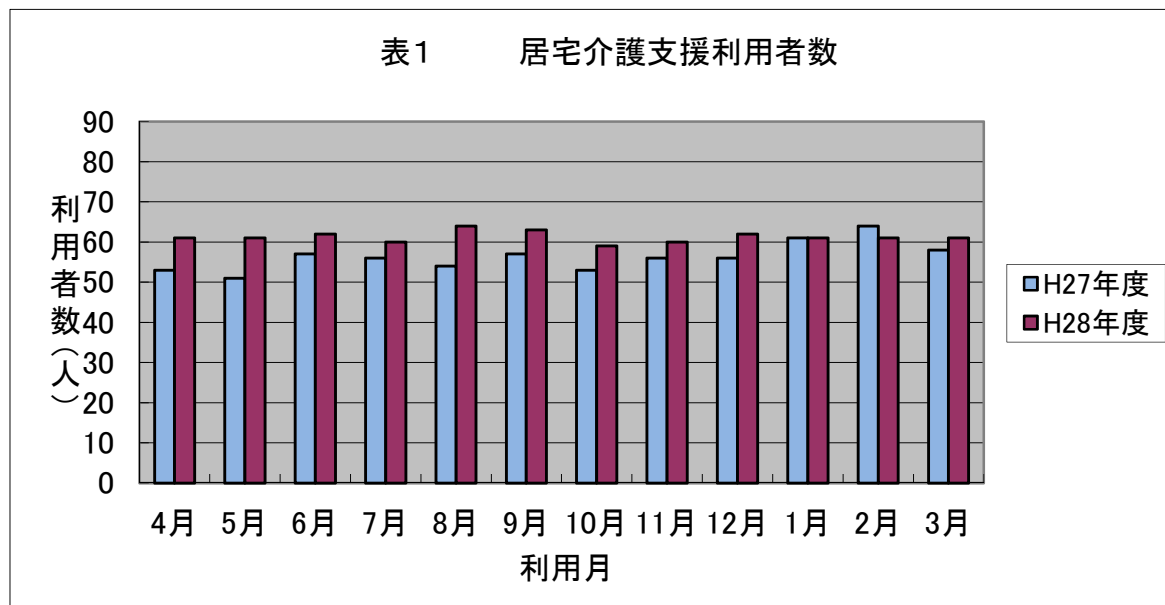


居 宅 介 護 支 援 事 業 所 ル ・ ソ レ イ ュ

1. 居宅介護支援利用者数(居宅介護支援費請求件数) (表1)

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成28年度	61	61	62	60	64	63	59	60	62	61	61	61	735



2. 要介護認定調査

契約先の市より委託を受け、当事業所の介護支援専門員が要介護認定調査を行った。
 受託先・・・西条市
 件数・・・95件

3. まとめ

H28年度の新規相談件数は39件だった(内訳:ル・ソレイユ直接相談13件、退院時の病院から依頼9件、丹原支所・民生委員からの依頼6件、包括支援センターからの依頼3件、他サービス事業所等からの紹介依頼8件)。実際にサービス利用に繋がった新規利用者は26件で、住宅改修・福祉用具購入のみは4件、申請もしくはオムツ券などの高齢福祉サービスのみ利用で、介護サービスに繋がらないケースが9件となっている。

施設入所での終了13件(特養、グループホーム、小規模多機能)、死亡6件、サービス中止(休止)2件となっており、計21名がサービス終了した。

平成28年度の新規相談39件の内、新規サービス利用開始が26件。入所や死亡等サービス終了も21件あった為、総合的に考えると日々の変動があり、急激な利用増加とはならないのが現状である。

昨年度は各方面の病院(愛大病院、十全第二病院、癌センター、愛媛医療センター、済生会西条、西条中央、西条市民病院、周桑病院等)から依頼相談があった。介護支援の質の向上を目指し、今後も医療との繋がりを維持していくことで、さらにネットワークが広がっていけばと思っている。

※介護予防については、H28年度の新規13名あり。更新時に予防から介護への移行や入院、死亡、中止等の動きはあるが徐々に増加している。{※H28年4月(25件)→H29年3月(32件)へ}

在宅介護支援センター

1. 事業実施状況

(1) 主事業月別実績

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
相談件数(延人数)	14	13	7	13	15	20	22
実態把握件数(実人数)	4	1	0	1	2	1	1

区分	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数(延人数)	14	14	10	17	13	172
実態把握件数(実人数)	0	1	1	1	1	14

(2) その他の事業実施状況

区分	年間合計
家族介護教室・介護予防教室	7回開催
地域ケア会議	1回開催
いきいき百歳体操	2ヶ所実施
高齢者カフェ	2ヶ所実施

2. 在宅老人福祉サービス(西条市行政サービス)申請件数

区分	年間合計
軽度生活支援	10
「食」の自立支援	5
介護用品給付事業	13
日常生活用具	0
緊急通報装置	0
外出支援	15(1)
介護手当	5
タクシー助成	26(4)
徘徊高齢者位置提案サービス	0
訪問理美容	2
生きがいデイサービス	0
生活用品給付事業	0
シルバーカー助成事業	0
合計	76(5)件

※()内は障害福祉サービス件数

4. まとめ

・平成28年度委託事業である総合相談事業(実態把握事業)、家族介護教室・介護予防教室、地域ケア会議、いきいき百歳体操、高齢者カフェ、西条市産業祭りの参加について、年度目標通りの実施を行うことができた。

・担当区域の地域特性(山間部による交通弱者や近隣に店舗がないことによる買物難民など)に応じた相談助言業務を、行政や地域包括支援センター等と連携を図りながら行っているが、新たな社会資源の創出については具体的な提案までには至らなかった。

配 食 サ ー ビ ス

1. 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
配食数	516	520	592	518	578	468	504	503	542	514	546	600	6,401
1日平均	25.8	27.37	26.91	25.9	26.27	23.4	25.2	25.15	27.1	27.05	27.3	27.27	26.2

2. まとめ

西条市内に在住の方で、毎日の食事に支障のある方、お食事の調整が困難な方に、管理栄養士指導による栄養バランスを考慮した給食の提供を実施。毎月530食前後の配達となっている。西条市食の自立支援事業を受けることができない高齢者の方に、自費での配達を実施している。

平成28年度 特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス 事業報告

事業所名	水分	歩行	排泄	食事
特養 2階 ユニット1	水分量アップの目的や、その方に合った水分量を毎月共有・確認することで職員全員が水分ケアの理解を深める事が出来た。水分量アップの必要なご利用者様に対して工夫して取り組めていたが、こまめな声掛けやケアの継続ができていない。今後細かな情報やケアの更新を記入した表を作成・活用することで全員が実行出来るよう努める。	月初めに担当者や時間を決め、故郷訪問や会いたい人に会いに行く外出の企画・実施を行い「帰れて良かった、会えて嬉しい」など沢山の声をいただいた。室内レクリエーションはユニット内では継続できている。今後は協力ユニットとの合同レクリエーションを活発に行なうことで参加される方・内容に変化を持たせ全員が、楽しく参加出来る日を作りたい。	トイレでの排泄が継続できるよう、下剤・パットの種類・MLの誘導時間など、その都度変更し対応できている。排泄リズムが変化し、軟便や便秘傾向の方もいらっしゃるため、下剤の調整だけでなく、飲み物の温度や種類・姿勢の管理など広く排泄リズムが整うよう働きかけていく。	おやつ作りに参加して頂いたり、毎日の汁物作りの味見をして頂いたり「食」を通してご利用者様が主体的に参加できる機会は増えている。しかし、参加できる工夫や声掛けなどが不足しており、職員主体となっていることも多い。情報交換を行い、参加して頂ける内容や様子を周知することで、ご利用者様主体の場面を増やしていきたい。
特養 2階 ユニット2	利用者様1人ひとりに合った、その時々の飲みたい物を確認し無理なく摂取することができた。こまめな声かけ、少量ずつ提供する、時間をずらすなど工夫することで水分量の増加が行えた。	利用者様の希望に添えられる様に、各職員が担当し情報収集から個別外出までを行うことができた。プロダグや居室に写真を掲示することで、家族様にも知って頂き喜んで頂けた。リハビリは、利用者様の声のあった時しかできなかった為今後の課題である。	各職員が積極的に排泄シートをチェックしながら繊維の多い飲み物や乳製品を取り入れ、排便コントロールを行うことができた。また、利用者様の排泄意に素早く対応できるよう、訴えの少ない方にも声かけを忘れないよう職員間で協力しながら行えた。	おやつ作りを通し、季節の食材を取り入れ日々の楽しみとして利用者様に喜んで頂けた。毎月の行事として、誕生日会や寿司パーティーなど継続的に行なうことで、利用者様と共にフロア全体で食への意識を高めることができた。
特養 3階 ユニット3	季節の変わり目などで体調を崩されたご利用者様も多く、1,500cc以上摂取出来たご利用者様が2割しかおらず目標達成には至らなかった。しかし、ご利用者様の好みの飲み物を知り提供することで摂取量が徐々に増えているため、特に認知症状により水分摂取が困難な方への水分ケアを中心に取り組んでいきたい。	個々に合わせた活動の定着を目指して行っていたが、実施出来る日と出来ない日があった。27年度はムラなく実施出来るように取り組んでいきたい。	トイレでの自然排便は全ご利用者様実現できているが、体調不良時等にベッド上でのパット交換を行うこともあった。今後も状況に合わせたトイレ介助の実施と新規ご利用者様の排泄ケアの定着に努めたい。	美味しく食事を食べて頂くために個々に応じた口腔ケアを実施した。ケアの統一を実現するために歯式やケアの留意点を記入した用紙を洗面台に貼るなどの工夫を行った。今年は感染委員会と連携して口腔ケアを徹底し、感染予防にも取り組んでいきたい。
特養 3階 ユニット4	食事・おやつ時に限らず、個々に応じたタイミングで水分補給を行い摂取が苦手な方には、ジェル・寒天ゼリーで水分量アップに繋がれた。ワパターにならず新たな形を取り入れ、喜んでいただくことができた。	限られた時間で、希望の散歩や外出レクを行い活動の場を広げ、室内では歩行訓練やみんなで楽しめる風船ゲームを取り入れた。残存機能の向上と維持を目指し、傷病後の立位・歩行のリハビリにも取り組み回復に導けた。	排泄委員を中心に個々の排泄リズムやパットの変更等、状況に応じてその都度見直ししてきた。下剤の使用も一定化することなく主治医とも相談しながらスムーズな排便が行えるよう努め、陰部の洗浄を統一し清潔にも心がけた。	おやつ作りを月三回、職員全員が行う目標を立てカレンダーに記すことで、おやつ作りが定着した。ご利用者様の好みも把握し、今後は食材や調理方法に変化を加えることで、待ち望んで頂けるおやつタイムを提供していく。
特養 4階	本人様・家族様に聞き取りを行い水分提供票を作成した。スタッフ同士が情報共有でき、各ご利用者様の好きな種類・温度・容器・時間に合わせた水分ケアが実施できた。フロア全体の水分量も増加した。	前年度に比べ、散歩や買い物など外出活動の定着ができた。しかし、個々に応じた外出・日々のレクリエーション月8回以上の目標は達成できなかった。来年度は、個々に応じたレクリエーション・過ごし方の検討・実施を行いたい。	気づきノートやミーティングでその方の状態に応じた排泄ケアを話し合い、スタッフ間で情報共有・ケアの統一ができた。しかし、中には水分摂取量増加傾向であるものの排便困難の方もみられ、今後、歩行や体操など活動を検討していく。	以前は給食委員が実施することが多かったが、今年度はフロアでの昼食作り・おやつレクリエーションなど他のスタッフやご利用者様も積極的に参加し取り組むことができた。ご利用者様の喜ばれる姿や笑顔も多く見られた。
ショート	水分ケアプラン表作成する事で、個々の好み必要水分量把握し、水分量増加はできたが、まだ、目標量に達していない利用者様もおられるので、課題も残る。	毎日のレクリエーション活動は、定着してないが、散歩、体操など残存能力を活かした活動は、取り入れている。また、定期的な製作活動は、実施できている。今後は、外出活動を増やしていきたい。	定期的な声かけにて、トイレでの排泄はできている。排泄パターンの把握、利用者様に合うパットの活用で、ほとんど失禁は見られない。	8月よりユニット炊飯を取り入れ、食事環境も整える事ができ、食事量の増加にも繋がった。また、後片づけ、配膳の手伝いなど利用者様の活動できる場も増えた。
デイ	ご利用者様の嗜好に合った水分提供できるように様々な種類の水分を用意した。時季ごとに好む水分にも変化があるため意見を聞きとり入れた。提供時間や量の見直しをしたが継続できている入浴直後と食後の一杯は特に好評で残さず摂取されている。全体的に前期よりも目標水分量800cc以上摂取される方が増加した。	室内で様々なレクリエーションをしたりお弁当日は食堂スペースを活用することで歩行距離が増えた。また施設外の散歩や近くの店まで買い物に行く事で楽しみながら歩行を行うことができた。外出の際は積極的に自ら歩行される方が多く活動量が大幅に増加している。また一日一回音楽体操を行っており定着できている。	午前中のトイレ誘導は継続できている。その中でも尿意、便意のない方や尿漏れ、パット内排尿がある方の情報を共有し誘導時間の変更をその都度行えた。誘導時間以外にも乗車方法やパットの種類等個々により様々なため振り返り、職員間で統一した排泄ケアをおこなえるようにした。	外食やおやつ外食を楽しみにされるご利用者様が多く、喜ばれた。その際食べたい物の聞き取りをし、できる限り希望に沿った外食支援を行った。メニューを見てご自身で選択することでより楽しめたり、店以外にも公園でピクニックも好評であった。また、デイルーム内の食堂スペースでの食事も小物や季節の行事食で工夫し、喜んでいただけた。